

令和2年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

1. はじめに

勤務医を取り巻く環境は、医療安全対策、過重労働、研修医の指導や自らの生涯教育のあり方など、課題が多岐に渡っている。とりわけ、近年取りざたされている「医師の働き方改革」については、厚生労働省、日本医師会等の様々なセッションで議論が交わされ、「時間外労働の上限規制」「応召義務」「自己研鑽」「宿日直」「タスクシフティング・タスクシェアリング」「救急医療」等をキーワードとして、多角的に検討が重ねられてきた。とりわけ、「医師の健康への配慮」と「地域医療提供体制の維持」という両立が難しい2つの課題を如何に解決していくかが重要であり、同時に医師不足・地域偏在への対策もしっかりと講じる必要があることは明白である。年齢や性別を問わず、全ての医師が丸となって向き合い、議論していかなければならない。

勤務医部会としては、いかなる状況にも対応できるよう、勤務医部会幹事会を活動拠点として、種々の問題解決に向け取組んでいるおり、勤務医部会総会では、医師のワークライフバランス委員会が主催する「医学生・研修医をサポートする会」とコラボレーションし、基調講演、シンポジウムを開催した。

また、新型コロナウイルスの影響により、延期となった全国医師会勤務医部会連絡協議会については、令和3年度10月の開催が決定している。開催形態としては新型コロナウイルスの状況が予測不可能であるため、Webでの開催に向けて議論を交わしている。Webであってもテーマとしてはリアル開催とは一線を画さず、メインテーマに「勤務医とともに歩む医師会の覚悟 ～医師会が守るべきもの、変えるべきもの～」を掲げるとともにシンポジウムでは、「専門医制度」と「京都府医師会の研修医向け事業」をテーマに議論をいただきたいと考えている。

また、京都府医師会の研修医向け事業の特徴を前面に押し出している「臨床研修屋根瓦塾 KYOTO」については、動画（短編映画）を撮影し、全国的に紹介することで研修医のボトムアップ、レベルアップ、スキルアップ、コミュニケーションの強化の一翼を担いたい。

すべての医師が働きやすい環境を整備していくことは医療業界全体にとって重要な課題であり、そのための提言や事業の策定に取り組んでいきたい。

2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来36年を迎えた。部会員数、即ち、B・C会員数は、令和3年1月1日現在、2,013名で昨年より51名の増となり、京都府医師会総会員中、45.7%を勤務医部会員が占めている。ただ、これは全国平均の49.8%（令和元年11月現在での日医集計による）と比べて低い状況にあり、京都府内に従事する勤務医の約3分の2が医師会に未加入であることを考えると、依然、勤務医の組織率が低い状況にある。

過去7年間の勤務医部会員数の推移

年	勤務医部会員数	京都府医師会総会員数	割合
令和3年	2,013名	4,399名	45.7%
令和2年	1,962名	4,369名	44.9%
令和元年	1,942名	4,367名	44.4%
平成30年	1,891名	4,339名	43.6%
平成29年	1,795名	4,243名	42.3%
平成28年	1,713名	4,148名	41.3%
平成27年	1,684名	4,120名	40.9%

※基準日：1月1日現在

3. 部会役員に関する件

松井勤務医部会長ののもと、幹事長に鴻巣寛氏、副幹事長には出島健司氏、吉波尚美氏、若園吉裕氏、福田互氏、木戸岡実氏にご就任いただいた。今期の役員は以下のとおり。なお、任期は府医役員に準じ2021年6月定時代議員会まで。

役職	氏名	医療機関
部会長	松井 道宣	同仁会クリニック
幹事長	鴻巣 寛	綾部市立病院
副幹事長	出島 健司	京都第二赤十字病院
〃	吉波 尚美	京都市立病院
〃	若園 吉裕	京都桂病院
〃	福田 互	京都第一赤十字病院
〃	木戸岡 実	伏見岡本病院
幹事	衛藤 美穂	京都第二赤十字病院
〃	吉井 一博	堀川病院
〃	細川 豊史	洛和会丸太町病院
〃	清水 聡	新京都南病院
〃	永田 一洋	康生会武田病院
〃	大越 香江	日本パプテスト病院
〃	谷川 徹	北山病院
〃	植田 知代子	京都桂病院
〃	伊勢 健太郎	三菱京都病院
〃	沢田 尚久	京都第一赤十字病院
〃	兼子 裕人	愛生会山科病院
〃	木下 智晴	洛和会音羽病院
〃	瀬田 公一	京都医療センター
〃	馬場 一泰	医仁会武田総合病院
〃	大野 智之	済生会京都府病院
〃	鹿野 勉	京都岡本記念病院
〃	中田 雅支	京都山城総合医療センター
〃	田中 宏樹	亀岡市立病院
〃	計良 夏哉	京都中部総合医療センター
〃	中村 紳一郎	市立福知山市民病院
〃	富士原 正人	京都ルネス病院
〃	竹内 一雄	舞鶴共済病院

4. 幹事会・正副幹事長会の開催

令和2年度は1回の幹事会と1回の打合せを含めた正副幹事長会を開催し、今期の事業内容を検討するとともに、総会の運営等について協議した。

開催日	会合名	主な協議事項
2.11.21	正副幹事打合せ	(1) 全国医師会勤務医部会連絡協議会のテーマ等について (2) 第3回勤務医部会幹事会の進行について
2.11.21	幹事会	(1) 第46回京都医学会について (2) 令和3年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の準備状況、企画・運営について (3) 令和2年度勤務医部会総会について (4) 勤務医部会幹事会MLへの投稿の奨励について (5) 次回勤務医部会の開催について（幹事長）

5. 府医各種委員会委員等への推薦

今期、勤務医部会から府医委員会の委員として下記の委員会に幹事を推薦し、勤務医の意見が反映されるよう意見具申していただいた。

◆学術・生涯教育委員会 木戸岡 実 副幹事長

また、勤務医部会員数が府医会員総数の40%以上を占める中で、府医代議員108名中、勤務医の代議

員数は4名、京大および府立医大の計5名を加えても計9名と、その比率は8.3%に留まっている。勤務医の意見が府医の会務執行に届きにくい状況であり、今後の大きな課題である。

6. 京都府医師会への入会促進

2016年度より始まった初期研修医の医師会費無料を受けて、各臨床研修指定病院のご協力のもと、積極的な入会促進を行い、106名の入会を得ることができた。

7. 第46回京都医学会への演題発表

今年46回目となる京都医学会は、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の情勢を鑑み、全プログラムをWeb開催とし令和2年9月27日（日）から10月31日（土）にかけて公開した。学会のWeb開催は府医にとって初めての試みであったが、新たな生涯教育研修の形態としての可能性を感じるよい機会となった。特別講演、シンポジウムともに事前収録、当日配信の開催形態を採った。特別講演では『消化器外科領域におけるロボット手術の最前線』として藤田医科大学 総合消化器外科学講座 主任教授 宇山 一朗 氏に講演いただいた。また、シンポジウムでは「がんゲノム医療の現状と展望～府内の連携体制と医療倫理について」をメインテーマに「保険診療下でのがんゲノム医療と課題」として京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学講座 教授 武藤 学氏、「がんゲノム医療と遺伝医療の連携」として京都大学大学院医学研究科医療倫理学・遺伝医療学 教授 小杉 眞司氏、「一般市中病院におけるがんゲノム医療の現況と問題点」として京都桂病院腫瘍内科 医長 山口大介氏のスペシャリスト3名に講演いただいた。

一般演題は、勤務医から52題（初期研修医9題含む）の発表があり、医学会を盛り上げた。演者から動画を提出いただき、特別講演、シンポジウムとともに約1ヵ月間オンデマンド配信したことで、多くの会員にご覧いただいた。また、今回から初期研修医を対象とした「初期研修医セッション」を新設し、優秀な発表を表彰した。

8. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として掲載した。

9. 全国医師会勤務医部会連絡協議会について議論

全国医師会勤務医部会連絡協議会については、新型コロナウイルスの状況を考慮し、開催の可否、形態について慎重に議論を重ねた。その結果、オンラインでの開催は危険性が高く、断念せざるを得ないとの結論に至った。

ただ、「中止」ではなく「延期」としたことから、令和3年度全国医師会勤務医部会連絡協議会についても京都での主管が求められたため、引き続き開催の可否、形態の検討を行ってきた。令和3年度の「延期」は、2年もの間、アクションが起こせなくなることを考慮し、新型コロナウイルスの影響が少ない、Web（オンライン）開催する方針で検討していきたい。